

◎「ウクライナ支援」 News Letter (15) 2023年4月6日

ミッション・宣教の声 黒田 禎一郎

主にある皆様へ

いつもウクライナの聖徒と教会のために、忠実に祈りお支えくださり心から感謝とお礼を申し上げます。皆様の上に主様の祝福がありますようお祈りします。前号（NL 番号を間違え失礼しました）で、船越宣教師との再会をお伝えしてしまいましたが、ここに少しですが報告をさせていただきます。

船越宣教師夫妻

欧州の穀物倉と呼ばれたウクライナは、その豊かな穀物を黒海に面したオデーサ（Odesa）港から、戦争前までは世界各地へ輸出をしていました。オデーサはウクライナで3番目の都市です。しかしプーチン・ロシア軍の軍事行動によって、通常の港の機能を失ってしまいました。ウクライナの男性は18歳から60歳までは、国を守るため国外へ出るには制限があります。残った男性は戦争下で経済が混迷し仕事もなく、多くの国民は生活に困窮しているのが現状です。

船越宣教師夫妻はそのオデーサにある単立バプテスト教会で、唯一の日本人宣教師として、約24年間にわたり主様に仕えておられます。ウクライナを愛し、ウクライナの人々にキリストの愛を伝えておられます。一人息子の勇貴兄は現在米国の神学校で勉強中、今夏に卒業予定です。彼はその後、ウクライナに戻りご両親を助け宣教の働きにお仕えする予定とのことです。ウクライナ生まれで育った彼は、きっとウクライナ人の目線で宣教をすることができましよう。どうぞ、勇貴兄を覚えてお祈りください。



現在の船越宣教師の働きは、主にオデーサ・バプテスト教会での牧会と伝道です。その教会はドンバス地方 <船越師（左）と黒田>（ロシア軍の攻撃を受け大打撃を受けたが、昨年9月にウクライナ軍が奪還した）からの避難民支援をしています。彼らは安全な隣国ポーランドやルーマニア国境近くに避難しています。その人々に衣服、食料品、医薬品などを届け、キリストの福音を宣べ伝えているとのことです。船越師は、「避難民は真剣にキリストの福音を聞いてくれる」、と言われました。西側から贈られた救援物資が避難民に渡さ

れ、それを通して福音宣教が効果的に伝えられているとのことで感謝であります。

ウクライナの必要

何が必要かという問いに対して、次のような返答をいただきました。

① 何よりも「とりなしの祈り」が必要

避難民への支援活動、何よりもキリストの福音が宣べ伝えられよう。
多数の避難民はメンタル面で非常な疲労を覚え、不安、将来への無気力感に襲われ、生きる希望を失っているそうです。

② 物的支援（多くの必要がある）が必要

必要は限りなくあるとのこと。この状態がいつまで継続するか不明であり、たとえ戦争が終結しても、その後の復興に莫大な支援が必要であるとのこと
です。

信仰のないウクライナ人は、混乱の中で希望がない。酒に溺れ、子どもを捨てる母親が現れ、子どもが施設へ送られるケースも出ているそうです。

このような、戦時下でイエス・キリストにあって仕えておられる船越宣教師夫妻を、ぜひお祈りに覚えていただければ幸いです。

祈りの課題

1. 戦争の速やかな停止・終息のため
2. 私たちの献金と支援が用いられますように。
3. 船越真人宣教師が主様に守られ、福音が宣べ伝えられますように
4. 戦争疲れと精神的ストレスから守られますように。
5. 教会（集会）指導者の上に神の助けと導きがありますように

※ この News Letter は不定期発行で、メール送信しています。